

## 私にとっての茶道

浜松聖星高等学校三年（静岡県）

## 松島 菜々心

私は、茶道が大好きです。和室の落ちついた空間でお点前をしたり、お抹茶をいただいたりすることが、何よりも好きです。私にとって茶道とは何か。主に三つの事柄が思いついたので、書いていこうと思います。

まず、私にとって茶道とは、思いやりの心を育む場です。お点前をする時は、いつでもお客さまのことを思い、お客さまのペースに合わせることを意識しています。逆に、お客さまの時も、おもてなしをしてくださる方が少しでも楽しめるように心配りをしたり、お点前のペースに合わせてるよう努めます。このように、茶道を習っていると相手を思いやる時間が増え、日常でも思いやりの心を持ち、生活することが出来ます。お互いがお互いに思いやることは、とても美しく、大切なことだと私は思います。茶道を通して、日常の中でもっと気配りができる人になるために、より一層茶道が上達するように頑張りたいです。

二つ目は、私にとって茶道とは、日本文化の楽しさ、美しさを学ぶ場です。茶道には、日本文化や日本独特の知恵など、日本の魅力が沢山つまっています。茶道をする時、令和の時代を生きる私が大昔の方々と同じ動作をしているのだと思うと、何だかとてもわくわくした気持ちになります。他にも私が魅力的に思っているものは、日本しかない四季です。茶道の道具は季節によって変わります。また、お茶花もその時々に変わり、茶道をするたびに四季を感じることが出来ます。素敵な四季のお茶花やお道具に囲まれて、改めて日本の素晴らしさ、美しさを実感します。このお道具を出すのでしたらこのお道具を、主張しすぎるのも良くないし、地味すぎても、同じ質感のものが被るのも良くない。素敵なお道具の中から、合うものを探るのもとても楽しいです。実際に合わせてみると意外と合うものがあったりと色々な新しい発見もさせてくれます。

三つ目は、私にとって茶道とは、様々な方々と出会い、視野を広げてくれる場です。茶道を習っていると、色々な方々に出会うことができます。茶道に関わっていないならば、出会うことができなかった方々も沢山いらっしやいます。私とは全く違った境遇の方々と一緒にお稽古をすることは、とても興味深いです。茶道を通して出会った方々の様々な考えは、まだ未熟な私の視野を大きく広げてくれます。そして、コロナ禍で特に感じたことは、やはり人とお会いす

ることはとても大切だということです。常にマスクを付け、感染対策をした上で茶道をするのですが、久しぶりに茶道を通して人とお会いした時は、憂鬱な気持ちがなくなり、改めて茶道ができるありがたさを実感しています。またのびのびと茶道ができる日を楽しみに日々過ごしています。

このように、私にとって茶道とは思いやりの心を育む場であり、日本文化の楽しさ、美しさを学ぶ場であり、視野を広げてくれる場でもあります。私にとって茶道は絶対に欠けてはならない、とても大切なものの一つです。これからも茶道を通して学んだことを大切に、そしてもっと茶道が上達できるよう、日々精進してまいります。これからも茶道を楽しんで続けていきたいです。